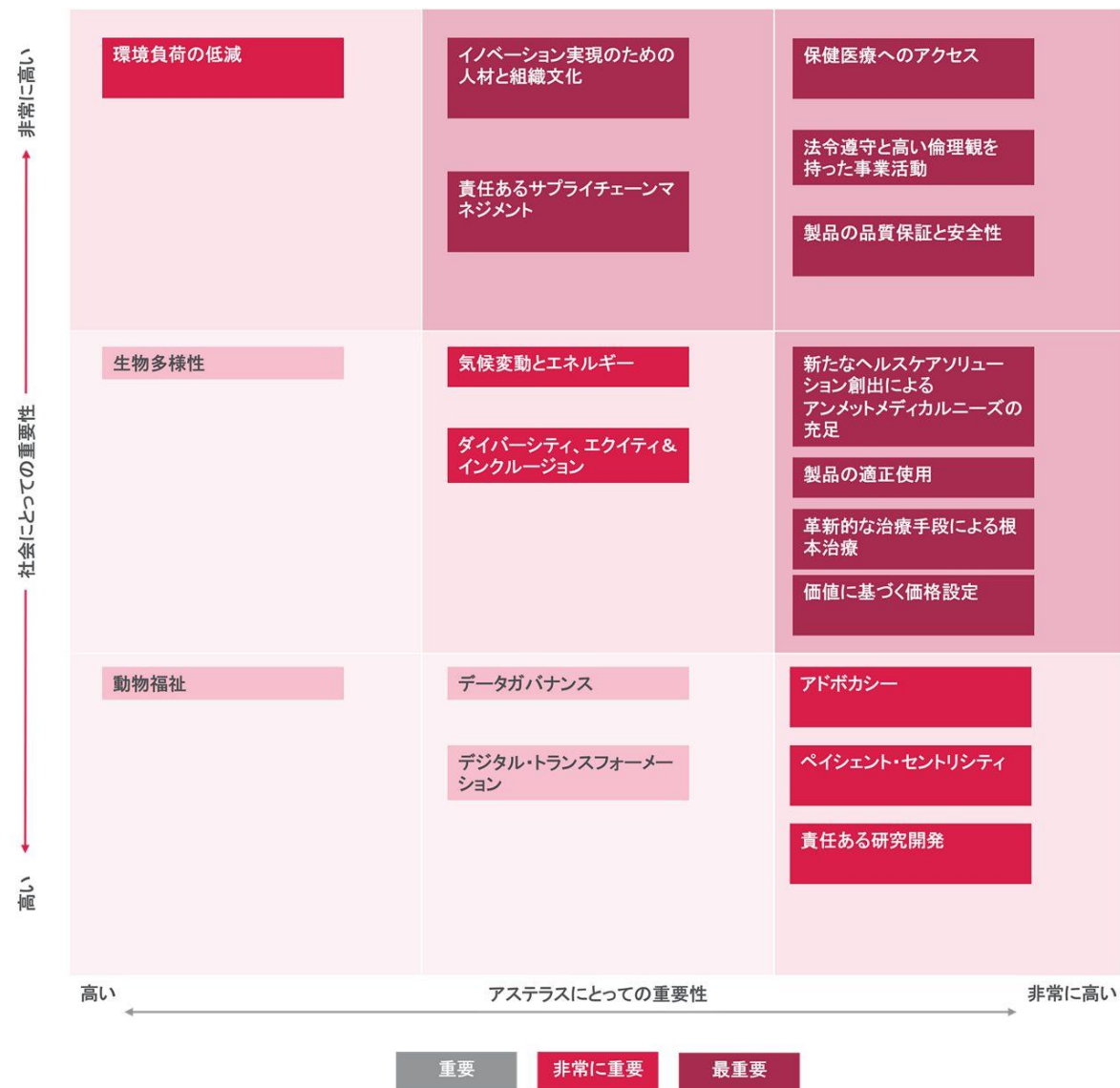


重要課題とマテリアリティ

変化する社会に柔軟に対応し、アステラスならではの観点で課題に挑む

アステラスのサステナビリティ向上の取り組みは、企業価値を持続的に向上させることに繋がっています。社会および事業を取り巻く環境が著しく変化するなか、私たちは社会とアステラスの双方にとって重要な課題を特定し、優先順位を付け、サステナビリティの取り組みの羅針盤となるマテリアリティ・マトリックスを 2021 年度に改定しました。

マテリアリティ・マトリックス



重要課題の特定プロセス

ステップ1：重要課題の特定

SDGs や各種フレームワーク（国際統合報告フレームワーク、SASB スタンドダード、GRI スタンドダード、ISO26000、グローバル・コンパクトの 10 原則、TCFD 提言）、ステークホルダーとのコミュニケーション、ESG 調査の評価項目などを参考に、アステラスが取り組むべき重要課題を特定しています。

2021 年度のマテリアリティ・マトリックスの更新では、前回の更新（2017 年度）以降のサステナビリティの潮流変化に関する調査も実施し、経営計画 2021 との整合性、業界独自の課題を確認し、改めて 19 の重要課題を特定しました。

ステップ2：課題の優先順位付け

「社会にとっての重要性」と「アステラスにとっての重要性」の観点から、特定した社会課題に優先順位を付け、マテリアリティ・マトリックスを作成しました。

「社会にとっての重要性」では、国際機関・政府や、NGO、投資家、業界団体などグローバルでのステークホルダーの関心の高さや、社会課題による経済損失規模に基づいて重要度を検討しました。「アステラスにとっての重要性」では、リスクだけでなく、アステラスのケイパビリティやアセットにより課題解決に貢献できる機会の有無を含めて検討し、経営層インタビューによる経営の視点も加えて重要度を検討しました。

ステップ3：レビューおよび最終化

機関投資家、業界団体、NPO、NGO など多様なステークホルダーから提供される情報や専門家へのインタビューにより内容を検証し、信頼性や客観性を担保しました。その後、社内の組織横断メンバーで構成される会議体（サステナビリティ コミッティ）での協議を経て、エグゼクティブ・コミッティ*における協議および取締役会での審議と承認がなされ、マテリアリティ・マトリックスを最終化しました。

機関投資家、業界団体、NPO、NGO など多様なステークホルダーから提供される情報や専門家へのインタビューにより内容を検証し、信頼性や客観性を担保しました。その後、社

内の組織横断メンバーで構成される会議体（サステナビリティ コミッティ）での協議を経て、エグゼクティブ・コミッティ*における協議および取締役会での審議と承認がなされ、マテリアリティ・マトリックスを最終化しました。

マテリアリティ・マトリックス更新の必要性については年 1 回サステナビリティ（ファンクショナルユニット）で確認しています。また、特定された最重要課題に対しては、取り組み目標と達成に向けたアクションプランを策定しています。

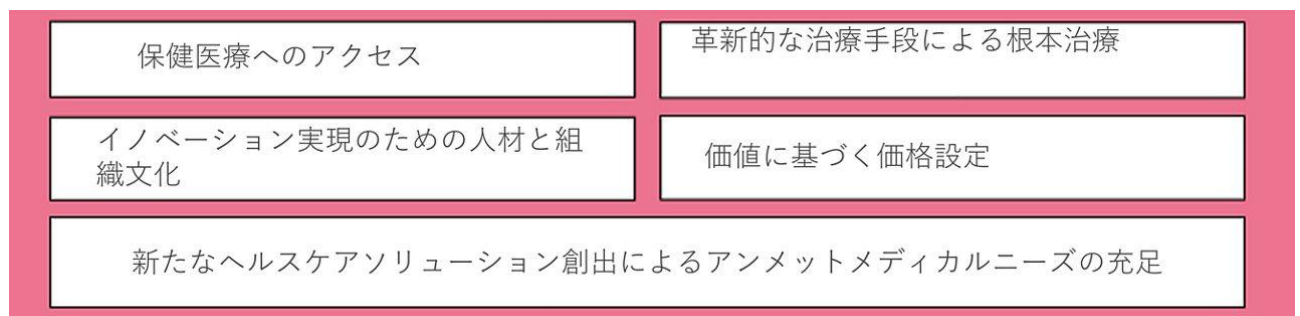
*アステラス製薬およびグループ会社における経営戦略、製品戦略、経営管理、人事等に関する重要事項を協議するコミッティ。

サステナビリティ向上のための 2 つの柱

私たちは、特定した 9 つの最重要課題（マテリアリティ）に優先的に取り組むことで、「最先端の『価値』駆動型ライフサイエンス・イノベーターへの変革」、および「社会の期待に応える強靱かつ持続可能な事業活動の強化」を推進します。重要課題とマテリアリティについては[こちら](#)をご覧ください。

最先端の「価値」駆動型ライフサイエンス・イノベーターへの変革

サステナビリティ向上につながるアステラスのビジネスモデルであり、「価値」を創造し実現することによって、革新的なヘルスケアソリューションを提供します。以下の 5 つのマテリアリティに対する取り組みを推進します。



環境のサステナビリティ向上

環境問題に対する積極的な関与が企業に求められています。私たちは、企業活動と地球環境の調和は経営の必須条件であることを強く認識し、地球環境の改善のために主体的に行動しています。上記 9 つのマテリアリティに加え、以下 2 つの重要課題に対する取り組みを推進します。

環境負荷の低減

気候変動とエネルギー

2つの柱に対するアプローチ

2つの柱に関連する9つのマテリアリティおよび環境に関する重要課題に対し、アステラスが中期的に優先する項目、具体的な取り組み、2025年度までのコミットメントを策定しました。今後これらのコミットメントに対する進捗状況をアップデートしていきます。

最先端の「価値」駆動型ライフサイエンス・イノベーターへの変革

最重要課題	アステラスの中期優先項目	具体的な取り組み	2025年度までのコミットメント
保健医療へのアクセス イノベーション実現のための人材と組織文化	研究開発における Focus Area アプローチにより科学の進歩を「価値」に変え、アンメットメディカルニーズの高い疾患の治療のための新しい治療法やモダリティを創出する	アンメットメディカルニーズに応え、従来よりも優れたアウトカムをもたらすソリューションを提供	世界の患者さんや介護者の生活を改善し、ヘルスケアシステム全体の負担軽減に貢献する
新たなヘルスケアソリューション創出によるアンメットメディカルニーズの充足 革新的な治療手段による根本治療	- アステラスが創出するイノベーションへの患者さんのアクセスを最大化し、患者さんがより良いアウトカムを得られるようにする - 医薬品の枠を超え、新しいヘルスケアソリューションを開発し、事業化する	- 製品ライフサイクルを通じた包括的な医薬品アクセスプログラムを実施 - パートナーシップやアステラス・グローバルヘルス財団によるヘルスケアシステム強化プログラムを支援	- より多くの患者さんにアステラス製品へのアクセスを提供する - 疾病の認識、予防、ヘルスケアサービスへのアクセスを改善することにより、3,600万人以上（累

価値に基づく価格設定			計) にインパクトをもたらす
	新しいモダリティの革新的な医薬品が世界の患者さんの健康に貢献し、持続可能なヘルスケアシステムを実現していくために、ステークホルダーに向けて価値に基づく価格設定をアドボケートする	革新的な医療へのアクセスを支える基盤として、価値に基づく価格設定をアドボケート	価値に基づく価格設定をアドボケートし、ヘルスケアシステムの維持に貢献する
	・ アステラスにイノベーションを創出する環境を構築する ・ イノベーションを促進する文化に支えられた、適切なケイパビリティを戦略と連動させる	一人のマネジャーが管理する人数の最適化と階層の削減による組織構造のフラット化、後継者育成の強化、心理的安全性を確保し積極的なフィードバックを促す文化を醸成	イノベーションを実現するための確かなケイパビリティを持つ人材と組織文化を醸成する

社会の期待に応える強靱で持続可能な事業活動の強化

最重要課題	アステラスの中期優先項目	具体的な取り組み	2025年度までのコミットメント
法令遵守と高い倫理観を持った事業活動 製品の品質保証と安全性	予測不能な事態や緊急事態においても製品を継続的に供給する強靱なビジネスを維持する	・ 非常用発電の強化や太陽光パネルなどの再生可能エネルギーの自社設備への導入の検討など、エネルギー調達の強化 ・ 調達先の二重化や物流拠点の分散化	より持続可能で強靱なバリューチェーンを構築する

責任ある サプライ チェーン マネジメ ント 製品 の 適 正使用		など、原料調達や 製品供給網の強化	
	製品の品質と安全性を保つためのケイパビリティをさらに高め、患者さんにとっての価値を最大化するために顧客との相互コミュニケーションを最適化する	- リーダー層のコミットメント、従業員への働きかけ、患者さん中心の考え方の浸透による「品質重視の文化」を醸成 - デジタルを活用した部門横断によるオムニチャネルでの顧客対応	「品質重視の文化」を醸成し、顧客体験を向上させることによって、製品の品質と安全性を確保する

環境のサステナビリティ向上

最 重 要 課題	アステラスの中期優先項目	具体的な取り組み	2025 年度までのコミットメント
環境負荷の低減 気 候 変 動 と エ ネ ル ギ ー	温室効果ガス排出量をパリ協定と整合性のある目標に向け削減し、2050年までに温室効果ガス排出量のネットゼロを達成する	エネルギー効率の向上、太陽光や風力などの再生可能エネルギーへの転換 サプライチェーンにおける温室効果ガスの削減	以下目標*に沿った適正な量の温室効果ガス削減を 2025 年度までに達成する *2030 年度までの温室効果ガス排出量削減目標 - ス コ ー プ 1+2 63%削減（基準年：2015 年度） - ス コ ー プ 3 37.5%削減（基準年：2015 年度）